

清流

川メール

発行日／平成29年 1月 1日

発行／静岡県河川協会
(事務局：交通基盤部河川砂防局)

E-mail:kasenk_s@yahoo.co.jp

〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9番6号

TEL：054-221-3032 FAX：054-221-3260



ユネスコ世界ジオパーク認定を目指す沼津市井田地区

写真提供：静岡県観光協会

C O N T E N T S

静岡県河川協会長新春挨拶	1
静岡県河川協会県外視察研修会	
静岡県河川協会河川等功労者表彰式	
河川関係事務研修会	
災害復旧事業促進全国大会・治水事業促進全国大会	

県内のトピックス

「水防災意識社会 再構築ビジョン」の県管理河川への拡大	3
熊本地震への災害復旧支援	
豪雨対策緊急整備事業の進捗状況	
多自然川づくり事例発表会の開催	

わがまちの川自慢

三島市、松崎町	6
---------	---

インフォメーション

しずおか川自慢大賞	8
河川・海岸・道路愛護団体等表彰	
編集後記、個人会員募集	



花筏(那賀川)

写真提供：松崎町



静岡県河川協会長新春挨拶

平成29年の新しい年を迎え、謹んで新春の御挨拶を申し上げます。

会員の皆様をはじめ関係機関の皆様方には、日頃から河川・海岸事業の推進及び当協会の運営に深い御理解と温かい御支援を賜り厚く御礼申し上げます。

近年、気候変動等に伴う水害が思わぬ地域で発生し、また堤防が決壊するなど激甚化している傾向が見られます。昨年は、8月後半に観測史上初めて3つの台風が上陸した北海道や太平洋側から台風が上陸した岩手県で、記録的な大雨により各所で河川が氾濫し、尊い命が犠牲となり、多くの家屋や農地等が浸水しました。

こうした状況の中、国が中心となり「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づき、各地域において、河川管理者と流域市町村等が協議会等を設置し、減災のための目標を共有し、ハード対策と住民目線のソフト対策を一体的・計画的に推進する取組が進められています。

当協会におきましても、こうした新しい取組を踏まえ、会員間、関係機関との連携を深め、事業展開してまいりますので、皆様には一層の御支援、御協力をお願いいたします。



静岡県河川協会

会長 **田辺 信宏**

(静岡市長)

静岡県河川協会県外視察研修会

平成28年11月10日から11日に「静岡県河川協会県外視察研修会」を北関東（茨城県、栃木県、千葉県、埼玉県）で開催し、県や市の河川事業担当者21名が参加しました。

【土木研究所「水理実験施設」】

土木に関する建設技術の調査、試験、研究などを行っている国立研究開発法人土木研究所は、南北約3km、東京ドームが約27個入る広大な敷地に、土木技術に関する約60もの各種実験施設があり、今回は、「水理実験施設」を視察しました。実験施設は、ダム貯水池の水理的な現象（土砂等の堆積、水質の改善など）や洪水吐き、放流設備、取水設備等に関する調査・研究に利用され、国土交通省のダムの洪水吐きや放流設備のほとんどが、ここでの模型実験を通じて水理設計がなされています。また、ダムの貯水位を利用してダム湖の堆積土砂を吸引して流し出す技術の実験も行われていました。

【鬼怒川緊急対策プロジェクト】

平成27年9月の関東・東北豪雨で甚大な被害を受けた鬼怒川の下流域で、国土交通省、茨城県、関係7市町が一体となり、ハード、ソフトの両面から対策に取り組んでいます。国交省下館河川事務所及び茨城県から豪雨の概要、浸水被害の状況と対応、被災施設復旧の状況や今後の取組などを、また常総市安全安心課からは、浸水被害発生時や水が引いた後に迫られた諸対応について説明をいただきました。その後、鬼怒川が決壊した箇所を訪れ、堤防復旧の状況を視察し、現在進められている堤防補強工事について説明を受けました。



鬼怒川（決壊箇所）にて

【渡良瀬川遊水地】

栃木、群馬、埼玉、茨城の4県にまたがり、3,300haの日本最大の面積を有する渡良瀬遊水地の歴史や治水機能、環境対策、平常時の利用等の説明を受け、栃木市藤岡遊水池会館では、栃木市遊水地課が取り組む渡良瀬遊水地の環境保全とワイズユース（賢明な利用）の話を伺いました。また、渡良瀬遊水地内のウォッチングタワーに立ち寄り、2012年（平成24年）5月にラムサール条約締結国会議にて正式に登録された自然豊かな渡良瀬遊水地の全景を見渡しながら、遊水地の機能やヨシ原の管理、ヨシ原浄化施設の概要などの話を聞く貴重な機会となりました。

静岡県河川協会河川等功労者表彰式

平成28年6月1日、もくせい会館（静岡市葵区）において「第49回静岡県河川協会総会」を開催し、「平成28年度（第33回）河川等功労者表彰式」を行いました。県内の治水、利水をはじめ、河川等の環境美化、水防活動等に多大な功績が認められた7団体1個人に対して、会長である田辺信宏静岡市長から賞状と記念品を授与し、田辺会長や市町の首長様、来賓の皆様らと記念写真を撮影し、受賞者の労をねぎらいました。



市町名	氏名または団体名	主な功績
伊東市	まつかたに 松川湖をきれいにする会 様	平成19年に伊東市の公共施設の里親制度（アダプトシステム）に基づき松川湖の里親となり、毎月第3土曜日に会員20名程で湖周辺のゴミの収集を行うなど、長期にわたり環境美化活動を実施している。
静岡市	TOMOEGAWA 様	安倍川河川敷の清掃を毎年2回行っており、河川環境アドプトプログラム参加団体の中心団体となっている。
藤枝市	あおしま 青島第10自治会 様	「青島第10自治会」に属する三軒屋、瀬戸、内瀬戸の3町内会は町内会役員が中心となり、流域町内会会員228人が参加して、地域を流れる二級河川栃山川・東光寺谷川・内瀬戸谷川などの草刈及び清掃活動を長期にわたり実施している。
藤枝市	たいしんじま 大新島町内会 様	町内会役員が中心となり、毎年4回、流域町内会会員1,450人が地域を流れる二級河川栃山川の草刈および清掃活動を長期にわたり実施している。
磐田市	NPO法人マリプロジェクト 様	遠州灘の豊浜海岸の海岸清掃を平成13年から続けていた有志が、平成19年にNPO法人として設立した市民団体で、広く一般市民に向け、海岸清掃の普及・自然保護活動・海岸の環境保全・青少年の健全育成等に資する多様な地域振興事業を行っている。
袋井市	さとほま 里浜の会 様	平成16年の設立以来、浅羽海岸への乗り入れ車両抑制のための海岸パトロールや、飛砂防止のための堆砂垣根の設置、修繕を実施している。
浜松市	しちいびだ 下飯田町自治会 様	長年にわたり地域住民と協力し、安間川の堤防約860mの草刈作業や清掃活動、堤防西側の法面約100mには四季の花々を植えるなど、河川の美化・保全活動を積極的に取り組んでいる。
浜松市	古橋 克彦 様	平成11年4月に浜松市水防団伊佐見分団へ入団し、以後17年にわたり水防活動の第一線で活躍している。

河川関係事務研修会

平成28年9月2日に、もくせい会館（静岡市葵区）において、「平成28年度河川関係事務研修会」を開催し、県・市町から実務担当者ら70名が参加しました。

市町事例発表として、浜松市河川課主任鈴木雄次氏により「高塚川アクションプランについて」、函南町建設課係長杉山守氏により「函南町における準用河川事業について」と題して発表していただきました。

河川実務講習会として、県の河川砂防局職員4名により「河川管理責任と占用許可（電気柵における対応）」、「大規模洪水に対する減災対策」、「洪水対応タイムラインの積極的な導入について」、「豊かな河川環境を目指して～多自然川づくりの取り組み～」の講習を行いました。

最後に、日本大学理工学部まちづくり工学科教授岡田智秀氏が「人が集まる川まちづくりの今」と題して講演を行いました。

災害復旧事業促進全国大会・治水事業促進全国大会

平成28年11月29日、災害復旧事業の促進と防災対策の強化推進を要望するため、「平成28年度災害復旧促進全国大会」が砂防会館別館（東京都千代田区）で開催され8名が参加しました。全国各地の災害復旧事業又は災害の防止事業に関し、長年に渡り献身精励し、顕著な功績があった個人及び団体が表彰され、県内から、桜井孝洋氏、倉橋孝氏の2名が表彰されました。大会終了後、静岡県選出国会議員に対して要望活動を行いました。

また、同年12月2日、平成29年度の治水事業費を確保する運動の一環として、「平成28年度治水事業促進全国大会」が砂防会館別館で開催され当協会副会長の森函南町長をはじめ8名が参加しました。大会終了後には、県内選出の国会議員への要望活動を行いました。



災害復旧及び災害防止事業功労者表彰受賞者

みずぼうさい

「水防災意識社会 再構築ビジョン」の県管理河川への拡大

平成27年9月関東・東北豪雨災害を踏まえ、国土交通省では、施設では守り切れない大洪水は必ず発生するとの考えに立ち、社会全体で洪水に備える「水防災意識社会 再構築ビジョン」に基づき全国の直轄河川を対象として、減災に向けたハード・ソフト対策を一体的、総合的、計画的に進めています。このような中、本年8月以降、台風により中小河川等においても甚大な被害が発生し、特に、台風10号の豪雨では、岩手県の小本川が氾濫し、岩泉町の高齢者施設において多数の利用者が犠牲となりました。

このため、国土交通省が推進している「水防災意識社会」の再構築に向けた取組をさらに加速させ、すべての地域において取組を進めていくことに加え、要配慮者利用施設において、水害・土砂災害に対して適切な避難行動がとられるよう、河川情報等に関する理解を深めていただくための説明会を開催することについて、国土交通省から都道府県に通知がありました。

このため、県では、「豪雨災害の減災に向けた新たな取組の説明会」を12月5日に静岡県建設技術監理センターで開催し、県と市町で今後の取組について情報共有を行いました。今後、県と市町等の関係機関で構成する協議会を新たに設置するなど、豪雨災害の減災に向けた取組を進めていきます。

■『静岡県豪雨災害減災協議会（仮称）』の設立

①設置単位

県・政令指定都市の管理河川について、洪水予報河川及び水位周知河川を中心に水防災意識社会の再構築に向けた協議会を土木事務所ごと（県内8地区）で設置する。

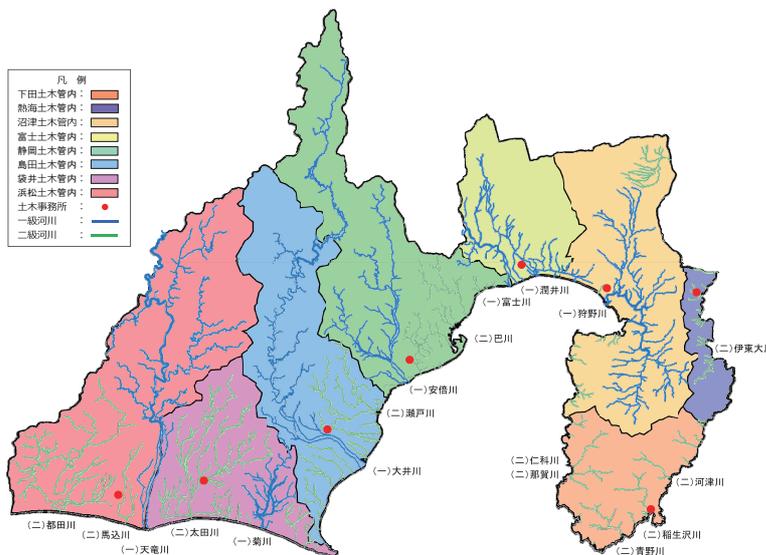
②設立時期

年明け以降、準備が整った地区から順次開催し、遅くとも来年度出水期までにすべての地区で協議会を設立する。

③主な取組内容

- ・円滑な避難のためのホットライン体制の構築、住民等への情報伝達方法の改善
- ・平時からの備えとして、ハザードマップの改良と周知
- ・円滑な避難に資する水位計やカメラの増設、決壊を遅らせる堤防構造の工夫

静岡県豪雨災害減災協議会（仮称）設置



【参考】直轄河川の協議会

名称	参加市町
狩野川水防災協議会	沼津市、三島市、伊豆市 伊豆の国市、富士市 函南町、清水町、長泉町
富士川流域における減災対策協議会	富士宮市、富士市、静岡市
安倍川大規模氾濫に関する減災対策協議会	静岡市
大井川大規模氾濫に関する減災対策協議会	島田市、焼津市、藤枝市 牧之原市、吉田町、川根本町
菊川水防災協議会	菊川市、掛川市
天竜川下流水防災協議会	浜松市、磐田市

■要配慮者利用施設の管理者への説明会の開催

- ・来年度出水期前までに、国土交通省中部地方整備局と合同で、県内の要配慮者利用施設の管理者及び市町担当者を対象として、洪水時に適切な避難行動がとられるよう、河川情報に関する理解を深めていただく説明会を開催します。
- ・説明会は関係する施設数などを考慮して県内の複数箇所での開催を予定しており、具体的な開催場所や日程などは、今後、決定次第、関係機関への通知及び静岡県のホームページでお知らせする予定です。

熊本地震への災害復旧支援

熊本地震派遣レポート

静岡県交通基盤部政策監付 主査 福田達樹

私は、6月6日から2週間、災害復旧支援として被災地へ派遣され、被害の大きい益城町周辺を担当する部署で業務を行い、被害の特徴や課題などを把握することができました。

ここでは、地盤沈下や河川について報告します。

■被害の特徴

被害の大きかった益城町における被害の特徴として次の4点が挙げられます。

1. 断層地震による地盤の変動（最大2mの広域地盤沈下）による被害が大きいこと（図-1）
2. 広域の軟弱地盤地域かつ地下水が豊富な地域であり、地震による液状化やすべり破壊などの被害が大きいこと
3. 広域地盤沈下による地下水位の相対的な上昇と地下水量の増加により地盤変状が継続していること
4. 一級河川緑川水系の扇状地であり、旧河道上での被害が多いこと
特に、1. では、河川の上流側に向けて沈下が大きくなっており、河川の流下能力が低下し、その後の豪雨被害の原因にもなる重大な被害です。

また、3. については、生活用水の自噴井戸が多数存在する地域で、大半が損壊したことで、地下水が無造作に湧き出ていることと、広域地盤沈下に伴い、地下水位が相対的に上昇していることが影響し、周辺の地下に大量の地下水が供給され続けています。このため、軟弱な地盤が更に流出するなど地盤変状が継続中です。これは非常に稀な現象であると共に、自噴井戸が個人所有であることなど、解決に向けて大きな困難が想定されます。

■被災地の苦勞

被災直後から現地の対応で苦勞していたのが長い河川堤防への仮堤防の設置です。

広域地盤沈下により河川の流下能力が大幅に減少したことで、堤防の全区間で仮堤防として大型土のうを1段設置する緊急工事を施工していましたが、施工延長が数十kmにも及ぶことや、短期間施工のための資材や施工業者の確保など多大な苦勞があったようです。

また、堤防として水密性を確保する精度の高い施工を行うことが非常に困難であったと言います。

しかし、仮堤防は、6月8日頃には完成しましたが、6月19日、20日の豪雨で堤防の決壊や土のう流出による広範囲の浸水被害が発生し、多大な苦勞により設置した仮堤防の多くが被害を受けました。（写真-1）

■被災地の課題と今後必要な対策

河川分野では、「広域地盤沈下の早期実態把握と河川の流下能力低下に対する迅速な本復旧の実施」が大きな課題であると感じました。被災地は幸いにも数年前に航空レーザー測量を実施済みであり、被災前の河川形状について既知のデータがありました。

それでも、広域地盤沈下量と河川の流下能力の減少量、必要な堤防高さの算定が完了したのが被災から2ヶ月経過した6月中旬でした。そして豪雨による被災を受けてしまいました。

早期把握と対策の高度化、重点化を進めても、避けられなかったと思われませんが、今後に向けて、静岡県としては、ICTによる河川管理や、電子基準点の増設など、早期実態把握に向けて近年の技術革新を大いに活用して大規模な地盤変動を伴う災害に対応できるようにしていく必要があると感じました。

以上、簡単ではありますが、被災地支援により把握した当時の状況と静岡県の防災力強化に向けた提案について報告いたしました。

熊本県が、度重なる被災から、しっかり復興を成し遂げるように今後も支援したいと思います。

布田川断層帯と広域地盤沈下の状況

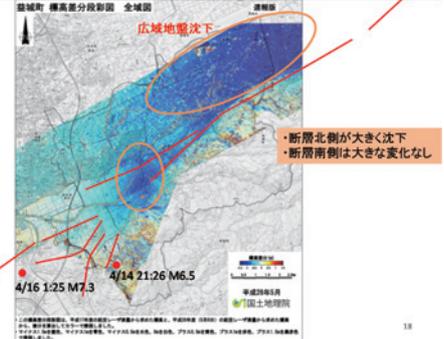


図-1 布田川断層帯と広域地盤沈下の状況



写真-1 6月19日、20日の豪雨で破堤した木山川の堤防

豪雨対策緊急整備事業の進捗状況

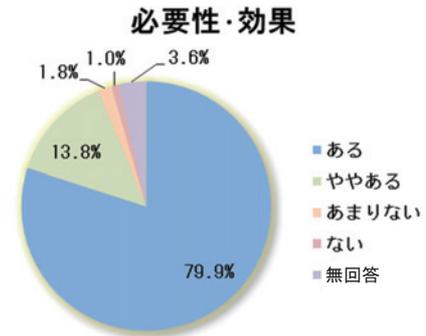
近年、全国各地で大災害を引き起こす豪雨が多発しています。本県においても、平成26年10月の台風18号や平成27年9月の台風18号及び前線による集中豪雨により、県内各地に大規模な浸水被害が発生しています。

このため、県では、台風や局地的な豪雨等による浸水被害を防止するため、過去に浸水被害のあった河川や、緊急点検において対策が必要であると位置づけた河川のうち、緊急性が高く、短期間で効果が見込める県下43河川を対象として、河川整備を進めています。

今年度は、事業実施箇所における整備効果を検証するため、地元自治会や住民の皆様に対してアンケート調査を実施し、アンケートに回答いただいた618名のうち約80%の方から事業の必要性や効果について、「必要ある」「効果がある」との回答をいただきました。「ややある」との回答を含めると、約94%の方がこの事業を必要であると感じ、また実施した整備効果を実感していただいている結果となりました。

このため、今年度実施中の工事を円滑に進め、早期に整備を完成させることで、県民の皆様の安全安心を図ってまいります。

【二級河川小藪川（周智郡森町中川地先）の例】



多自然川づくり事例発表会の開催

県が各地で進める多自然川づくりの事例を発表する「静岡県多自然川づくり事例発表会」を開催しました。県下、8土木事務所の代表者による発表と、特別講師としてお招きした水産技術研究所富士養鱒場主査鈴木邦弘氏より「魚類から見た多自然川づくりについて」と題した講演を聞き、今後の多自然川づくり推進に向けた情報交換や意識向上が図られました。

会場審査を踏まえた審査の結果、静岡土木事務所の発表事例がグランプリに選ばれ、中部ブロック多自然サロンにおいて事例発表を行いました。



発表会の様子



塩田川の取り組み事例



グランプリ表彰（静岡土木）



三島市

源兵衛川

「源兵衛川」は、市立公園「楽寿園」小浜池に水源を発する、全長約1.5kmの河川で、農業用水路として、下流部142haの水田地帯に用水を供給し、室町時代から現在に至るまで、地域農業を支えています。

用水路としての機能を保つ一方、源流部より約1.0kmは飛び石の遊歩道が整備され、川を歩くことのできる人気の観光スポットとなっており、また夏には多くの子どもたちが川遊びを楽しむ等、地域住民の憩いの場でもあります。



晩秋の源兵衛川



水源地「楽寿園小浜池」

中流に位置する「水の苑緑地」では、頻繁にカワセミを見ることができ、最下流の「中郷温水池」は富士山のビューポイントとなっているなど、川に沿っていくつも豊かな自然が残り、全域をとおして非常に魅力あるウォーキングのコースとなっています。

昨年11月には「世界かんがい施設遺産」に登録され、ますます注目が集まる三島市の宝です。

【お問合せ先】三島市土木課 TEL：055-973-5733

松崎町

松崎町の中心部を流れる那賀川と岩科川が合流する河口付近では、毎年12月下旬から2月上旬の川の水温が非常に低くなる時期に川のり採りが行われます。

川のりは淡水と海水の混ざる汽水域で生育するもので、その鮮やかな濃い緑色と独特の香りは、昔から地域の人々に好まれ、様々な料理に使われてきました。乾燥させた川のりを、味噌汁に入れたり、温かいご飯にかけて食べるのが、シンプルながら地元の人に人気の食べ方ですが、近年



川のり採り



川のりコロッケ

は「川のりコロッケ」など川のりを使った新たな名産品も生まれています。ここ数年は、自然環境の変化などにより、収穫量が減少傾向にありますが、地域の住民の皆様により、その生態や学術的な研究を学び、貴重な自然資源を守っていく取り組みが行われています。

しびれるような寒気にさらされ、水面に蒸気霧が立ち上る中で、川のりを採る風景は、松崎の冬の風物詩です。

【お問合せ先】松崎町産業建設課 TEL：0558-42-3965

河川・海岸、道路愛護団体等表彰式を開催しました

県では、7月の「河川愛護月間」「海岸愛護月間」、8月の「道路ふれあい月間」において、県民の皆様の暮らしを支える大切な財産である河川や海岸、道路の愛護思想の普及を図っています。

その一環として、長年にわたり愛護運動に尽力し、その功績が特に顕著である個人や団体に対し、知事表彰を行います。今年度は、8月24日（水）に県庁で表彰式を行い、吉林副知事から河川・海岸関係4団体と道路関係2団体の計6団体に対し、知事褒賞を授与しました。

受賞された皆様の御活躍により住みやすい地域づくりが一層推進されるとともに、愛護活動の輪が広がっていくことを期待しております。



受賞された皆様

受賞団体：（河川・海岸）中野町内会、大洲第1自治会、袋井市立今井小学校、龍禅寺町自治会（道路）二の宮区花の会、天平フラワーロード会（以上、敬称略）

『第16回しずおか川自慢大賞』が開催されます

『第16回しずおか川自慢大賞』が、平成29年2月18日（土）に静岡科学館る・く・るにて開催されます。しずおか川自慢大賞は、1年に1回開かれる川仲間の活動発表と交流の場です。水辺が好きな仲間同志、見たり聞いたり情報交換もできる楽しい場です。どうぞみなさん遊びにきてください。



第15回しずおか川自慢大賞（平成28年1月30日開催）参加者のみなさん

【お問合せ先】しずおか川自慢大賞実行委員会 TEL：054-248-5678

静岡県河川協会事務局より

- ◇平成29年度の静岡県河川協会理事会及び総会は、平成29年6月1日（木）に開催を予定しております。皆様の御出席をよろしくお願いたします。
- ◇毎年御好評をいただいております静岡県河川協会県外視察研修会は、平成29年度も予定しております。多数の御参加をお願いいたします。
- ◇事務局では皆さまからの御意見をお待ちしております。紹介したい事例、イベントなどございましたら、事務局までお気軽に御連絡ください。
- ◇また、清流表紙に掲載する静岡県内の水辺の写真を募集しております。詳しくは下記宛にお問い合わせください。

【連絡先】〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
 静岡県河川協会（静岡県交通基盤部河川砂防局内）
 TEL：054-221-3032 FAX：054-221-3260
 E-mail：kasenk_s@yahoo.co.jp

公益社団法人 日本河川協会 個人会員募集のお知らせ

公益社団法人 日本河川協会では個人会員の募集をしております。
 詳細につきましては下記宛にお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先／公益社団法人 日本河川協会
 〒102-0083
 東京都千代田区麹町2丁目6番5号
 麹町E. C. Kビル3階
 TEL：03-3238-9771
 FAX：03-3288-2426